

## 医療から見る「死」

「治す医療」から「支える医療」へ

ゲスト発題者 住田綱一さん

(開業医)

### 人生の最期の準備・・・

日本は現在、世界のどこも経験したことのない超高齢化社会に突入しています。

これまでの「治す医療」から「支える医療」への転換が求められている中、人生の最期をどうするかといった本人の意思の確認と尊重が非常に重要になっています。

欧米では、既に一九九五年頃から本人の意思尊重が守られ、意思決定能力低下に備えての対応プロセスであり、今ではこの活動は患者・家族の双方向に有益であることが確認されています。

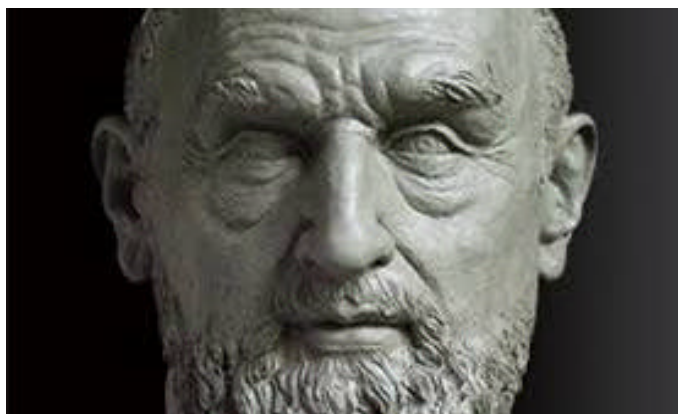
以前には、日本でも living will や事前指示書といった文書で行われた経緯がありました。文書のみでの限界を指摘されるようになりました。この結果を受け

て、人が人の思いを引き出し、支えるという本人と医療者の関係の中で考えていくというプロセスが、より重要となりました。

この日本で、プロセス重視の活動として本人の意思を医療・介護の現場でどのように確認していくか、どのように共有していくのかなど検討をかさねていく必要があります。

今回、この会を通じ、少しでも人生の最期をどのように迎えるか考えていただけると幸いです。(住田)

これまでの医療は、できる限り「死」を遠ざけるというイメージが強いものでした。ですから、患者は医師の指示に従うことが当たり前として受け止められていました。しかし、住田先生の指摘のように「死」に向かう人をどう支えるかという議論が必要です。皆さんの考えを是非交流してほしいと思います。(三)



ヒポクラテスの誓い(抜粋)

患者に利すると思う治療法を選択し、害と知る治療法を決して選択しない。

依頼されても人を殺す薬を与えない。

自由人と奴隷の相違を問わず、不正を犯すことなく、医術を行う。

### 第五回感想

## 「お金」って何だ」

もともと関心のあるテーマでしたので、おもしろかったです。予想してたように、どの方もお金について、両義的な感情、必要だけど、どうも、という気持ちを持っておられたように思えました。「お金のない世界を、イメージできない、でも経験してみたい。」という発言が印象的でした。世界的な市場経済にまきこまれて、そこから抜けできることは不可能だけれど、どこかでそれを相対化できるイメージを作りたいなど、僕も思います。お金が人を自由にするという結論は、違つな思いましたが、いろいろながらみから、人を合理的にときはなつという意味では、確かにそうだなと思えます。問題は、ここで私たちが感じる自由というのが、ほとんど、誰にも頼らず、束縛されず、自分が、好きなことができるという意味での自由(自分が所有したり、支配する力としての自由)になってしまっていることだと思います。他人におおらかに依存したり、依存してもらつたりできる自由、のびやかさ、自然から略奪する自由ではなく、自然の営みに従つ、身をゆだねる自由(仏教的な感覚に近いような)、そういう自由の感覚もとりもどしていけるようなくみを作りたいなと思えます。時間銀行、地域通貨、ただめし券、税金を通しての再配分など、面白いヒントがたくさんあったと思います。また今度、もう少し焦点をしぼって話し合ってみたいですね。

「お金とは何か？」の話は難しいけれど、お金にまつわる話は面白かったです。お金があればほとんどの欲望がかなえられます。しかし、一般大衆にはそれほど十分な金があるわけではありませぬ。だから落語の中には途方もない話が出てきます。「千両みかん」は、真夏という前提でみかん一個千両、一袋百両するから、番頭がこれを持ち逃げするという話。また「芝浜」という人情話では、大金を拾った酒飲みの夫が、妻の才覚によって目覚めるという話。落語だけでなく、人間は途方もないことを考えます。お金は便利なものだけに想像力を膨らませ、夢や希望や幸福を与えてくれます。しかし、お金の値打ちは信用によって裏付けられていますから、信用がなくなれば夢も希望も消え去ります。日銀券だってそう、ビットコインならなおさらです。金は天下の回りものというけれど、なかなかわれわれ庶民の所にはやってきません。お金はあるてもなくても想像力をかき立てます。あれやこれやと楽しい問答でした。先日は大変お世話になりました。哲学カフェに参加すると脳がフル活動してその後スキッとします。（お金で済ませられることもお金で済ますな！）話を聞きながらお金で簡単に済ませてはいけない事もたくさんあるんじゃないかなって思いました。済ませてしまつと物事の問題点や本質が見えなくなると思います。（富の分配）やっぱり必要な人に必要な分だけ分配することが当たり前という考えが増えることを願つ、そんな事を書くこと「きれいな事」とか言われそうですね。（スベイン人に学ぶ）時間銀行のお話はとても興味深く

さつそく検索してみました。どんどん検索していくと「働くために生きる」と「生きるために働く」スペイン人は後者。という内容に出会いました。時間銀行がこれからどう展開していくかわかりませんが、日本人も生きるためにそこそこの収入を得て楽しく暮らそう！みたいな考え方の人が増えてくると人間の尊厳を踏みこむような事件、自殺者も減るんじゃないかと。お金でも道具でも知恵でも何でもきつと使い方が大事なのだと思えます。当たり前のことですが・・・やっぱりお金で人は救えないと思えます。お金はあるても手段でそれをいかに使うかという人間性があつてこそ救われると思えます。（余談）感想を書きながらいろいろんな事が頭をよぎりました。前の仕事をしているとき、ストレスでよく買物物を買いました。ばつとお金を使ってストレス解消、そしてまたブラツクな仕事に帰っていく。今思えば「働くために生きていたなあ」と思います。喜びも多少はありましたが仕事というお化けに忙殺され思考停止の日々でした。アーレントの言っていた労働、仕事、活動のことなど・・・もう一度アーレントの本を読み直そうと思えます。色々考えるチャンスをくださつてありがとうございます。



- 「物々交換は不便だから、便利にするためにお金が生まれた」が常識になっていきますが、それってホント？もつともつと丁寧に考えてみると、物々交換があつたのかどうかも疑つてみる必要がありそうです。そんな知的な好奇心を呼び起こしてくれた哲学カフェでした。ありがとうございます。
- お金は安心と不安の両方をもたらせてくれるものです。もう少しドライにお金と付き合いたいと思います。

## 今後の予定

【第六回】で「問答連」も最終回になります。来年の予定は、継続するかどうかも含めて現在では未定です。ご意見などがありましたら、ホームページ（欄外記載）からメールにてお願いします。

最後に改めて、半年間のおつきあいありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

## 会場の案内

会場は、「ムーレック」にて行います。参加費はワンドリンクオーダーです。

JR京都駅から（約三〇～四〇分）

- 市バス二六番『等持院南町』。
- 市バス五〇番『北野白梅町』下車、徒歩約6分。

京阪三条駅から（約三〇分）

- 市バス一〇番『等持院南町』。
- 市バス一五番『北野白梅町』下車、徒歩約6分。

